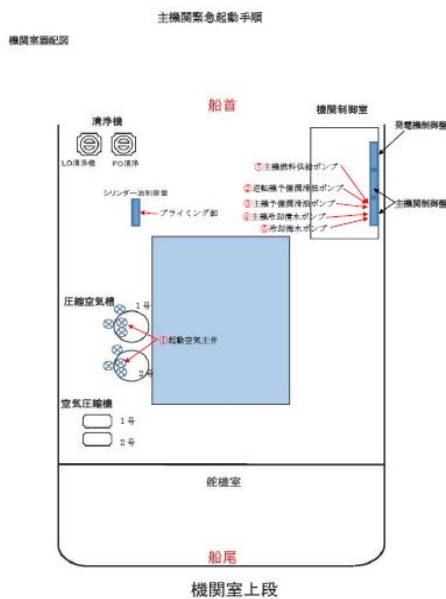


業 種	海運（貨物）
取組分野	自然災害に備えるための教育・訓練
テ ー マ	地震による津波から避難するため甲板部職員による主機の緊急起動訓練
取組の狙い	運航船舶が地震による津波に遭遇した際に、主機を緊急起動して港外に避難することにより、安全を確保することを目的とする。
具体的内容	<p>日鉄物流株式会社は、東日本大震災（平成 23 年）の際、仙台鋼材ヤード着岸中の社船が津波の到来前に主機を緊急起動して港外に避難できた事例の振り返りに基づき、2018 年 4 月から運航船約 160 隻（社船、定期用船、運航委託船、連続トリップ船）の甲板部職員（主に一等航海士）を対象に主機の起動訓練を実施する取組を実施している。</p> <p><b>1. 背景</b></p> <p>着岸中の船舶は、一部の乗組員を残して上陸することが多く、甲板部の職員のみが乗船している時に地震が発生した場合、機関部の職員が乗船していないため、主機関が起動できないことが懸念される。これは、通常、甲板部の乗組員は、主機関の起動に関する訓練を受けていないためである。</p> <p><b>2. 位置付け、訓練の実施状況</b></p> <p>甲板部乗組員への主機機動訓練の実施は、日鉄物流の 2018 年重点活動項目であり、主な活動内容として、「津波等により緊急出港の備えとして、甲板部乗組員に対する主機起動を実施する。」としている。</p> <p>2018 年 6 月からの起動マニュアル作成船舶数は約 68 隻、訓練の実施船舶数は約 39 隻となっている。</p> <p><b>3. 主機の起動訓練に至るまでの流れと内容</b></p> <p><b>(1) 主機の起動手段を確認（半日）</b></p> <p>日鉄物流株式会社から委託された船員指導の専門会社が事前に訪船して、主機の起動手段を確認する。</p> <p><b>(2) 起動マニュアル作成（1 日）</b></p> <p>起動マニュアルは、船毎に異なるため、以下の①～③を船毎に作成して印刷の上、ハードケースに収めて備え置いている。</p> <p>① 主機関緊急起動手順：主機関を起動するためのフロー</p> <p>② 機関室機器配置図：機関室内の主機関起動のための機器配置の平面図</p> <p>③ 主機関起動のための解説と番号が付いた写真</p>



【起動マニュアルの例】

(3) 現場で起動訓練実施 (1 時間程度)

甲板部職員のみで実際に主機を起動させる。



【緊急起動の訓練状況】

取組の効果

1. 自社船の震災遭遇に端を発して必要性を感じた訓練であり、実際に災害に直面した場合、訓練以上に行動することは困難との考えに基づいており、非常時の備えとして有効であると考えている。
2. また、社船以外の船舶は、船員の交代が頻繁にあるため、継続的に取り組む必要があると考えている。

事業者名

日鉄物流株式会社 内航海運本部 安全・船舶管理部  
(連絡先 03-3241-6994)